

来

年秋に始まるNHKの朝ドラが『ばけばけ』に決まった。最初に聞いたときは、また水木しげる？と思った。ところがモデルは小泉セツ。小泉八雲は、おばけというより幽霊だろう、と思ったが、きつとさまざまな「ばける」が描かれることになるのだろう。折しも、今年是小泉八雲が代表作の『怪談』を出版して百二十年にあたる。それを記念して、松江市が様々な企画を考えている。市民の企画参加も求めている、最高三十万円の補助金を出しましょうという熱の入れようだ。

前にも書いたが、小泉八雲を子どもたちに語ってもらいたいというのは、落語教室開設以来の願いだっただけで、この流れに乗らない手はないと考えた。どっちみちやるのだから補助金は関係ないが、もらえるのならやれることも広がるから、申請してみることにした。一つ気がかりなのが、要項に交付の対象外と挙げられている「営利を主たる目的とした者」の項目。超零細企業体の我が塾もひよとしてこれに相当するのかと、念のため市に聞いてみた。数日して届いた回答には、「ホームページなど見せてもらいましたが、残念ながら、貴塾は、営利を主たる目的とした者にあたりと判断しました。」とあった。ホームページもわざわざ見てくれたんだとちよつと感謝したのと同時に、ほ

ほう、うちの塾もそう見られるのだと何やらおかしかった。実態に依じての判断なぞしては行かないだろうから仕方ない。

補助金は袖にされたが、代わりにいくつかが有益な情報をくれた。その一つが百二十年記念のロゴマークで、使用許可を申請して承認されればホームページやチラシに使えるというものだ。これが実にかっこいいので申請してみたら、二日ほどして松江観光協会事務局長の判子を押された承認書が送られてきた。すぐにそれを入れたホームページのスライドとチラシを作った。補助金もらつてややこしい報告書を作る手間を考えると、これで十分だと思った。

子どもたちの何人かには、すでにその子に合いそうな怪談を渡している。

「うちの子、夜一人でトイレにも行けないんですが、だいじょうぶでしょうか」と心配された保護者もあつたが、ぼく自身がそういう子であつたと同時に無類の怪談好きであるから、

「もちろんです。語る側が怖がっていないと聞いている方は怖くありませんから」と根拠に乏しい論旨で煙に巻いた。無理強いするつもりはまったくないが、どうやらおもしろくなつてきた子がいるようだ。



北海道への旅、三度目
木幡智恵美

11

真つ暗な家の前にたどり着いた。助手席から降りると、車のことは夫に任せ、玄関の鍵を開けて中に入る。昼間の熱気が家中に籠っているので、一階から二階へと窓をみな開け放つ。そして、車が車庫に降ろされると、夫がJAFの方と話している間に、降ろせる荷物はどんだん玄関先に運んだ。それが終わるとJAFの運転手さんにあいさつをするや家の中に駆けこみ、パソコンを開いてホテルのキャンセルをする。間に合った。キャンセル料金なしだ。

ひと段落つき、「今夜は母さんも飲もうよ」と夫が言うので、クーラーボックスを開ける。まず、弁当を取り出し、次に缶ビール二本をテーブルの上に置く。缶ビールは、保冷用に二日前から冷蔵庫に入れていたし、冷凍していたペットボトルと一緒にしていたから冷えている。二人で乾杯してから弁当の蓋を開けると、ご飯もおかずもぐちゃぐちゃになっていた。

車がぶつかってから五時間余り。暑くて長い時間だった。それでも、怪我がなくて何よりだ。「JAFの人が言つてたけど、後ろの乗用車が突っ込んで少し浮いたようになつたから、車が壊れた割に身体への衝撃が少なかったんじゃないかって」と夫が言つた。それから、「来年、また同じコースを行くか」と続ける。「いや、まだ来年のことは」と言葉濁す。今になって怖くなつてきたのだ。ぶつかつた瞬間は何が起きたのか分からなかつた。とにかく、夫に言われるがまま百十番通報し、フェリーのキャンセルをし、警察が来てからは聞かれることに答え、あとはひたすら迎えの車を待つていた。そうか、浮いたのか。後ろにたくさん荷物を積んでいたのもクッションにもなつたかもしれない。あれが、つい二か月前まで乗つていた軽乗用車だつたらこんなでは済まなかつたらう。

ふと、三十年近く前の光景が浮かんできた。長男と二男を当時使つていた軽乗用車の後部座席に乗せ、信号待ちをしているところに車がぶつかつてきたのだ。ルームミラーで、後ろの車の運転手が助手席を向いているのが見えた。スピードが落ちていたから二人の息子が怪我はなかつたけど、今回のようなぶつかり方だつたらと思うとぞつとする。

「じゃあ、義一のとこにでも行くか」と夫は言うが、しばらくは高速道路を走りたくない。

30代フリーター 経団連が選択的夫婦別姓制度の早期導入を政府に求める提言を公表した（6月10日朝日新聞デジタル）。

年金生活者 夫婦同姓の強制が資本主義の足かせとして作用する度合いが強まったことのあらわれだ。資本主義的な合理性が「良き習わし」を壊すことを嫌がる保守派はいっそう導入反対の姿勢を強めるだろう。

興隆期の資本主義、第2次産業を牽引車とした産業資本主義は、自由で平等な労働力を利潤の源泉として発展した。自由とは自由な売買、つまり交換可能性を、平等は性差や出自を捨象した均質性を意味する。資本主義は今で言うジェンダー平等を必要とする特性をもともと持っている。

夫婦同姓の強制は事実上、女性差別につながるので、資本主義の求める労働力の交換可能性と均質性に反する。女性にとって、それは姓の変更や旧姓の通称使用にともなう非効率率、トラブルの発生、制約となつてあらわれ、労働市場への参入障壁として作用する。

労働力を買いたたきたくて常にその供給過剰を望んでいる資本にとってそれは不都合なことだ。少子高齢化の進行が、人手不足を深刻化させ、その不都合を放置できないまてになったことが、経団連を「提言」に踏み切らせた動機と言うことができる。

30代 保守派から見れば、経団連は金もうけのために「家族の一体性」を壊そうとしていることになる。

年金 夫婦同姓は明治維新より前にはなかった「近代的」な制度なのに、保守派がその護持に固執するのは、それが江戸時代までの家族の「伝統」をいわず濃縮し、体系化したものだからだ。

その「伝統」とは、人間を個人単位ではなく、家単位で扱うことを指す。江戸時代まで武士は夫婦別姓、百姓や町人は姓がなかったが、人はみな家単位で扱われ、「家族の一体性」が貫かれていた。明治になって、みなが等しく姓を持つようになったとき、その「伝

統」を近代的な法の言葉で表したのが夫婦同姓制度と考えることができる。

明治国家は列強に伍して自らを主権国家として確立するために、米欧並みの法体系の導入を迫られた。それには国民の平等が前提となる。でないと、徴兵制を敷くこともできない。国民全員に等しく姓を名乗らせることにしたのも、そうした「近代化」の一環だった。その中に家族一体の「伝統」を埋め込んだのが夫婦同姓を強制する民法だった。

30代 自民党政府は経団連の提言を受け入れるだろうか。

年金 保守派が守ろうとするのは、存続の危うくなった伝統だ。それを守ることが保守派の存在理由となる。西欧の保守主義はフランス革命によって危機に瀕した伝統を守ろうとして生まれた。日本の保守派にとって、夫婦同姓制度は危機に瀕した、守るべき対象の典型にほかならない。

夫婦同姓制度の存続は経団連にとつて不都合なことではあつても、自らの

存在理由を脅かすものではない。これに対し、夫婦別姓制度の導入は保守派の存在理由を脅かすだけでなく、自民党の権力の源泉のひとつを涸らす恐れがある。この党が経団連の提言を受け入れることはないだろう。

30代 現在の世界では、ジェンダーをめぐる考えの違いが、格差や貧困の問題以上に左右の対立を先鋭化させている。

年金 初めに言ったように、第2次産業を牽引車とする産業資本主義は、性差を捨象する均質な労働力を利潤の源泉として発展した。その意味で資本主義はジェンダー平等に寄与してきたと言える。しかし、現実には不平等を残り、ときにはそれを助長した。その直接の理由は、第2次産業の労働が筋力に依存する特性を持つていることにある。それは農業労働よりもきわだっており、筋力で女性よりまさる男性は労働力として優遇された。

だが、資本主義が第3次産業を牽引車とするポスト産業資本主義の段階に

ニュース日記 927
中村 礼治

性と差別

移ると、労働における筋力の優位性は消失し、男性を優遇する理由はなくなった。しかし、女性の労働力に対する低評価はイデオロギーと化して定着した。それに対して、女性への差別的撤廃を求める声が左派、リベラル派からだけでなく、資本の側からもあがるようになった。資本主義は性による差別を残らずなくすことを要求する段階にまで発展したと言うことができる。右

派、保守派にとつて、それは資本主義が最後に残した「良き習わし」の破壊を意味する。彼らが選択的夫婦別姓の導入に執拗に抵抗する理由がそこにある。

30代 世界経済フォーラムの2024年版「世界男女格差報告書」によると、日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中118位で、G7で最下位だ。

年金 性は差異によつて成り立つ。男性性と女性性の差異だ。

母と一体だった胎児は、この世界に生まれ落ちたとき、母とは異なる個体の乳児となり、差異を背負わされる。その解消、すなわち母胎の楽園への帰還は生涯にわたつて消えない願望となる。しかし、それはかなうことのない願望であり、それを代替するのが性にほかならない。性が差別を誘いやすいのは、その本質が差異にあるからだ。公私の分離が今なおあいまいな日本では、差異と差別の境界もまたあいまいになる。